

きずな



スマイルクラブ(筑前町)・・・P1.2

直江ひまわりの会(吉富町)・・・P3.4

県庁お知らせ掲示板・・・P4

スマイルクラブ(筑前町)

『自分が楽しい』が原動力！

～筑前町松延新道区「スマイルクラブ」のゆるやか地域づくり～

筑前町松延新道区。国道386号沿いに広がるこの地域は、約5年で100世帯以上が増加した、新旧住民が入り混じるベッドタウンです。農家がない地域という特色を持つこの地で、「ボランティアの崇高な理念だけではない、自分たちが楽しむ地域づくり」を掲げ、ユニークな活動を展開しているのが「スマイルクラブ」です。鶴我区長と、その活動を支えるメンバーの皆さんの言葉から、その温かい地域づくりの秘訣を探ります。

「無理なく、楽しく」を追求する誕生秘話

スマイルクラブの活動は、地域で行われていた高齢者向けの「いきいきサロン」廃止を機に、交流機会の喪失を危惧する声から始まりました。鶴我区長が重視したのは、住民の声です。当時約250世帯を対象に行ったアンケート調査では、なんと回答率50%という驚異的な関心の高さ。「世代関係なく集まれる居場所が欲しい」「新しい人たちとも交流したい」という、新旧住民双方のニーズが浮き彫りに。この高い住民意識が、スマイルクラブ設立の大きな後押しとなりました。

この声を受け、運営委員会と町社会福祉協議会の協働のもと、「無理なく、楽しく、緩やかに」を合言葉に、子どもから大人まで、世代を超えて楽しめるスマイルクラブが正式に発足しました。

鶴我区長の「崇高なボランティア精神だけでは続かない。自分たちが楽しむのがメイン」という言葉が、活動の原点です。



◀ スマイルクラブのロゴ

「無理しない」が継続の秘訣 ～心を掴む活動と運営術～

スマイルクラブの活動は多岐にわたりますが、その全てに「無理しない」工夫が凝らされています。

一つは、「メリハリのある年間計画」です。行事を詰め込みすぎず、何も無い月を「公民館開放デー」として設定。子どもから高齢者までが気軽に交流できる緩やかな場を提供しています。夏休みには「宿題を持っておいで」と呼びかけ、地域全体で子どもたちを見守る温かい光景も。

また、「活動日と地域行事の連携」も特徴です。原則として地域のゴミ資源回収日を活動日とし、住民がスムーズに参加できるよう配慮。さらに、区費で子ども会費を全額負担し、子ども会に加入しない家庭の子どもたちも気軽にイベントに参加できる仕組みを構築。「ここに住むすべての子どもが参加し、楽しんでほしい」という鶴我区長の強い思いが込められています。秋祭りやハロウィンイベントも大好評で、多くの住民が楽しみにしています。



▲イベントの様子
様々な世代が集まり和気あいあいとした集いとなっています

「任せる」勇気と「顔の見える関係」が育む絆

松延新道区は若い世代の転入が多く、スマイルクラブでは彼らの力を積極的に活用しています。鶴我区長は、「無理に参加させない」「仕事が一番」という考えを徹底。LINEでの情報交換や、若いメンバーにイベント企画の担当を任せるなど、慣習にとらわれない風通しの良い環境づくりを推進。「若手リーダーの平田さんご夫婦ら、みんなが自立して活動してくれる。みんながいるから活動できているんです」と、メンバーへの信頼を語ります。

鶴我区長自身の積極的な声かけや新規世帯の状況把握が、「顔の見える関係」を育み、世代を超えた信頼関係の礎となっています。

「誰もが楽しく」 ～スマイルクラブが描く地域の未来～

「『若い者は黙っとけ』という時代錯誤な慣習は、通用しない」と鶴我区長。若い世代の意見を尊重し、耳を傾けることで、多様な住民の声を活かし、誰もが楽しく、居心地の良い地域を目指すスマイルクラブ。既存の枠にとらわれず柔軟に活動を調整する鶴我区長の姿勢こそ、新しい地域づくりのリーダー像を示しています。

鶴我区長は最後にこう語ります。「私たちはボランティアという一義的な行動ではなく、自分たちが楽しむため、自分の生活の潤いのために活動しています。そうした『誰もが楽しい』という気持ちが、結果的に地域を活性化させる原動力となるのだと思います」。

地域住民が「笑顔でいられる場所」を創出し続けるスマイルクラブの活動は、地域の担い手不足に悩む多くの自治体にとって、大きなヒントとなるに違いありません。



参加者の前で話す鶴我区長(秋祭りにて)

地域に咲くひまわりの笑顔 ～直江ひまわりの会(吉富町)～

福岡県の最東部に位置する吉富町は、豊かな自然に囲まれた面積5.72平方キロメートルの九州で一番小さな町です。

今回ご紹介するのは、吉富町直江地区で活動する「直江ひまわりの会」。かつての婦人会の解散を機に発足した同会は、子どもたちの思い出づくり、日常の繋がり、多様な視点での地域づくりを通じ、地域に笑顔と活気をもたらしています。



◀直江ひまわりの会活動写真

地域に根ざした活動の始まりと目的

直江ひまわりの会は、2014年（平成26年）に婦人会の解散を受けて発足しました。近年の自然災害の経験から、日頃から地域住民の顔が見える関係の重要性を認識し、互いが支え合うコミュニティ作りを目指しています。

特に注力するのは、子どもたちのための活動です。地域の子どもたちが故郷に愛着を持てるよう、新1年生や卒業する6年生へのお祝い、盆踊り等、地域ぐるみで子どもたちの成長を見守り、世代を超えた絆を育んでいます。



▲新1年生を迎える会の様子

多彩な活動と持続可能な工夫

直江ひまわりの会の活動は多岐にわたります。「染物体験」「しおり作り」「スライム作り」といった体験型ワークショップから「カレー作り」「ピザパン作り」「デコレーションケーキ作り」等の食育活動まで、子どもたちが楽しみながら学べる工夫が凝らされています。コロナ禍以降は、衛生面に配慮し、作ったものを持ち帰る形式に変更する等、時代の変化にも柔軟に対応しています。

また、直江地区の子どもたちのプレゼントとして、6年生には中学校の体育館シューズ、新1年生には、小学校で使用するシューズとハンカチ、ランドセルにつけられるミニランドセルの飾りを贈呈しています。これらの活動資金は、会費収入に加え、地域からの補助金やアルミ缶回収等で賄われています。



▲染物体験の様子
玉ねぎの皮でハンカチを染めました



▲デコレーションケーキ作りの様子
事前に焼いたスポンジにデコレーションします

多様な視点とリーダーシップでつなぐ絆

直江ひまわりの会の特長は、多様な視点とリーダーシップによる活動です。会長の高尾さんは、「地域を支える人が元気なら地域も元気」という信念のもと、きめ細かな配慮と行動力でコミュニティを活性化しています。

立ち上げ当初約13名だった会員は、現在30名近くに増え、若い世代の参加も増加しています。

また、自治会等の地域の他団体とも連携し、盆踊りの櫓設営等、様々な役割を地域全体で協力して担うことで活動を盛り上げています。地域住民がそれぞれの得意分野を活かして参加することで、地域全体を巻き込み、コミュニティの大きな力を生み出しています。



▲集合写真 地域の子もたちがたくさん参加しています



◀新春を生ける会の様子
お正月を彩ります

住民同士の繋がりを大切に

生花やケーキ作り等、多世代が参加しやすい活動は、住民同士の繋がりに大きな役目を果たしています。若い方や常連でない方が参加されたときに「よく来たね」と歓迎する雰囲気ができており、交流の輪が広がっています。

「災害時には、コミュニティが一番大切になる」と語る会長の高尾さん。いつどこで起きるかわからない災害時に備え、地域に住んでいる人の顔がわかる環境を作りたいとの思いが伝わりました。

県庁お知らせ掲示板

ニセ電話気づかせ隊に参加しませんか？

平成27年6月、ニセ電話詐欺被害が急増したことを受け「ニセ電話気づかせ隊」が発足し、現在、約1万2千団体の方々方が隊員として活動しています。活動内容は「友人等に対する注意喚起や被害者かもしれない方々に対する声掛け」等であり、阻止していただいた隊員には、感謝状と阻止功労賞を贈呈しています。県民の皆様のお力をお貸しください。詳しくは、県警ホームページをご確認ください。



▲警察本部生活安全総務課 092-641-4141

中山間応援サポーターを募集しています！

中山間応援サポーターは福岡県内の中山間地域で草刈りや農産物の収穫作業などをボランティアでお手伝いしています。小学生以上(18歳未満の方は保護者の同伴が必要)なら誰でも参加でき、登録料や年会費は無料です。地域の方々との協力で活動しますので、農作業の知識や経験がない方も参加できます。詳しくは、ホームページをご覧ください。<https://f-ouen.com/chusankan/>



▲農山漁村振興課 092-643-3503